

「宇宙牛プロジェクト：宇宙テクノロジーで 拓く畜産の現状とポテンシャル」シンポジウム

日時

2023年2月22日

場所

日本橋三井タワーX-NIHONBASHI

参加費

無料（対面定員50名）

地球観測技術や衛星測位技術の高機能化およびコモディティ化によって、その技術を様々な領域に適用することで価値を生み出せる可能性が世界的に高まっています。そのため、鹿児島大学と慶應義塾大学、北海道大学は、牛の放牧による畜産の課題を解決することを目的に、実際の畜産事業者との連携によって、放牧地と放牧牛をモニタ可能な自動飼養システムの構築とそれによる過疎地活性化を目的として取り組みを進めてきました。本シンポジウムでは、その取り組みに関係した国内外の専門家をお招きし、現状と未来、可能性のお話をお伺いするとともに、私たちの取り組みの成果報告を行います。その上で、畜産に寄与する宇宙技術の未来について議論を行います。多くの方のご参加をお待ちしています。

プログラム

● はじめに

1300-1310 後藤貴文（鹿児島大学/北海道大学教授）

● ご挨拶

1310-1320 須藤正幸氏（文部科学省研究開発局宇宙開発利用課
宇宙連携協力推進室長/航空技術戦略室次長）

● 基調講演

1320-1335 「データ科学を用いた米国での精密畜産農業」
師田郷太氏（バージニア工科大学准教授）



1335-1350 「ニュージーランドの放牧畜産の歩みと現状」
David Allen氏（ニュージーランド大使館参事官）



1350-1405 「近未来の畜産の事業形態を考える」
世良田圭祐氏（（株）さかうえ 畜産事業部長）



1405-1420 「一次産業での気候変動対応のための
宇宙ビッグデータ活用の可能性」
百束泰俊氏（（株）天地人COO/創業者）



1420-1435 休憩

● 成果報告

1435-1445 「宇宙技術と未来の畜産の形態」
後藤貴文



1445-1455 「畜産と環境負荷の関係を多面的に
捉えるための宇宙技術」
内田 義崇（北海道大学農学研究大学院准教授）



1455-1505 「地球観測・測位・IoT：多様なデータ融合
による畜産への貢献と未来」
神武直彦（慶應義塾大学大学院SDM研究科教授）



1505-1515 「地球観測衛星データによる放牧地の草量と
放牧牛の関係性の評価と検証」

向井田明（（財）リモートセンシング技術センター リサーチ事業部長）



1515-1525 「遠隔自動給餌機の放牧地での活用性について」

山口真樹（鹿児島大学農学部農業生産科学研究支援員）

1525-1535 「高精度測位を活用した放牧牛の行動分析と挑戦」
セキウンエイ（慶應義塾大学大学院SDM研究科博士課程）

1535-1545 「森林の草地転換が牛糞の分解速度と微生物
の分解活性に与える影響」

木村有歌理（北海道大学大学院国際食資源学院博士課程）

1545-1555 休憩

● パネルディスカッション 15:55-17:20

「より良い畜産の未来を創造するための宇宙技術の貢献と課題」

（パネリスト）後藤貴文

小高暁（慶應義塾大学大学院SDM研究科特任准教授）

TBD

（モデレータ）神武直彦

● おわりに

1720-1730 神武直彦

参加登録

Peatixよりご登録下さい。

<https://sepbeefsymposium.peatix.com/>

【お問合せ先】 sepbeef@gmail.com（鹿児島大学 山口真樹）

【主催】 文部科学省・鹿児島大学・慶應義塾大学・北海道大学

【協力】（財）リモートセンシング技術センター・三井不動産（株）

この事業は（令和2年度宇宙航空科学技術推進委託費採択課題「過疎地活性化のための地球観測と高精度測位による放牧地と放牧牛をモニタ可能な自動飼養システムの構築」）（代表機関：鹿児島大学）で実施されています

